

実践報告

大学生が参画するKodomo2.0のサイバー防犯活動の実践

野崎 慎悟*・陣内 誠**・浴本 信子***・横尾 英樹****
青柳 達也*****・今村 一希*****・羽田 潤*****・角 和博*****

Practices of Kodomo2.0 Participating Student for Protecting Children from Cybercrime

Shingo NOZAKI^{*1}, Makoto JINNAI^{*2}, Nobuko EKIMOTO^{*3}, Hideki YOKOH^{*4},
Tatsuya AOYAGI^{*5}, Kazuki IMAMURA^{*6}, Jun HADA^{*7}, and Kazuhiro SUMI^{*7}

【要約】

佐賀大学の教員及び学生などが参画する特定非営利活動法人ITサポートさが（以下「ITサポートさが」という。）の活動のひとつであるkodomo2.0プロジェクトは、様々な世代に対して情報モラル啓発のために公演活動を行っている。特に昨年度からは、子どもたちの情報モラル育成のためにドラマ教材を作成し、佐賀県内の小学生、中学生および高校生の計8名、さらに大学生を含めた12名で演劇ワークショップを行なっている。本報告ではkodomo2.0プロジェクトが行った平成22、23年度の実践と演劇ワークショップの詳細について報告する。

【キーワード】

情報モラル、ドラマ教材、青少年、育成、地域、教育実践、産官学民

1 はじめに

平成19年に発足したITサポートさが、プロジェクトkodomo2.0は、佐賀県におけるデジタルデバイトの解消と安全・安心なインターネット社会の実現を目指して活動している。

早い段階から子どもたちに情報モラル教育を行うことが必要であると筆者らは考え、ネットトラブルやサイバー犯罪から子どもたちを守るためにドラマ教材を製作し、小学校、中学校および高校生向けに実践している。

2. ITサポートさかの活動概要

ITサポートさがでは大人や子たちを対象にして、ネットの安心・安全ポスターコンクール開催、架空請求疑似体験サイトの構築、さらに情報モラル

啓発劇を作成した。ここでは情報モラル啓発劇と平成22、23年度の活動について取り上げる。

2.1 情報モラル啓発劇

情報モラル啓発劇「YOKOOH!劇場」は、インターネットの危険性をわかりやすくドラマ教材化したものである。演目の主な流れとしては、素朴な少年が誤った認識でパソコンや携帯電話を使い、インターネットを操作することでさまざまなトラブルに巻き込まれる。演技者の背景には、劇の内容に関する画面をプロジェクターで投影し、劇の場面をより理解し易くしている。

その後、トラブルに巻き込まれた主人公を黒い騎士が厳しく指導し、解説者がわかりやすく場面を説明する。その際に、パワーポイントを利用し

*佐賀大学大学院教育学研究科 **牛津小学校 ***エヌビーコム ****日新小学校 *****古賀英語道場
*****佐賀大学理工学部都市工学科 *****佐賀大学文化教育学部

て文字や図で提示することで、大事なポイントを明確にしている。筆者らはこの情報モラル啓発劇を活動の中心にしている。

2.2 平成22年度の活動

ここでは、平成22年度にITサポートさがが行った活動を紹介する。

表1 平成22年度 ITサポートさが 活動一覧

内容	日時	実施場所
「中国四国九州地区生涯学習実践研究交流会」講演（分科会講師）	5月15日	福岡教育実践センター
「生涯学習情報ファイル」（第一法規）執筆	5月	
情報モラル教室啓発劇と講演	6月6日	小城市立牛津小学校
インターネットの現状講演	6月10日	佐賀大学
「いじめ問題の対応と予防講座」公演	6月14日	佐賀県教育センター
情報モラル教室啓発劇と講演	6月20日	佐賀市立日新小学校
「サイバー犯罪防止教室」～インターネット・携帯電話の落とし穴～ 講演	6月24日	三田川中学校
鳥栖中学校区3校合同研修会 講演	7月16日	鳥栖市立鳥栖北小学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」（佐賀市）啓発劇と講演	7月24日	メートプラザ
鳥栖市旭小学校PTA主催「安全・安心インターネット講座」啓発劇と講演	8月6日	旭小学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」（唐津市）啓発劇と講演	9月19日	唐津市文化体育館文化ホール
「インターネット、携帯による危険防止講演会」講演	10月20日	唐津市立久里小学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」講演	11月4日	武雄市立橘小学校
「PCカンファレンス in 長崎」学会発表	11月13日、14日	長崎大学
第62回 全国人権・同和教育研究大会 啓発劇と講演	11月20日	佐賀市文化会館
「インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	11月26日	嬉野産業文化センター
サイバー犯罪から子どもたちを守るシンポジウム	12月5日	佐賀大学
インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	12月18日	玄海町立値賀小学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	12月19日	鳥栖ショッピングセンターイズミ
「親に伝えたい携帯電話の危険性」啓発劇と講演	2011年1月21日	アバンセホール

表1 平成22年度 ITサポートさが 活動一覧

「インターネット、携帯による危険防止講演会」（児童5、6年生、保護者）講演	1月24日	嬉野市立五町田小学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」（児童6年、保護者）講演	1月24日	武雄市立北方小学校
ネット時代の親力養成講座	2月	i スクエアビル
ネットの安全安心ポスターコンクール表彰式	2月	i スクエアビル
性と生を考えるネットワーク研修会	2月	アバンセ
伊万里青少年健全育成大会	3月	伊万里公民館

表1を見てわかるように、平成22年度は計27講演を行い、場所も多岐にわたる。

2.3 平成23年度の実績

ここでは平成23年度（23年12月19日現在）に行った実践をまとめる。

表2 平成23年度 ITサポートさが 活動一覧

内容	日時	場所
情報モラル教室啓発劇・講演	6月12日	佐賀市立日新小学校
情報モラル教室啓発劇と講演	6月12日	佐賀市立西与賀小学校
情報モラル教室講演	6月12日	小城市立牛津小学校
情報モラル教育の必要性について講演	6月22日	武雄市
「インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	6月24日	多久市立多久中央中学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」講演	6月28日	嬉野市役所
「インターネット、携帯による危険防止講演会」講演	7月19日	吉野ヶ里町教育委員会
ネット時代の親力養成講座	8月21日	多久市立多久中央中学校
佐賀県「情報モラル研修会」啓発劇と講演	8月23日	佐賀市文化会館
「インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	8月26日	武雄市文化会館
情報モラル教育の必要性について啓発劇と講演	8月27日	佐賀市教育会館
「性と健康キャンペーン」啓発劇と講演	10月22日	アバンセ
情報モラル教室啓発劇と講演	10月29日	武雄市立東川登小学校
情報モラル教室啓発劇と講演	11月6日	武雄市立御船が丘小学校
情報モラル教室講演	11月15日	唐津市立肥前中学校
「インターネット、携帯による危険防止講演会」啓発劇と講演	11月19日	佐賀市神野公民館
情報モラル教室啓発劇と講演	11月27日	小城市立三日月中学校

表2 平成23年度 ITサポートさが 活動一覧

「インターネット、携帯による危険防止講演会」 啓発劇と講演	12月10日	小城市 牛津公民館
「インターネット、携帯による危険防止講演会」講演	12月17日	嬉野市立 塩田中学校

平成23年度は計19回の講演・公演を行った。表2の「場所」の項目を見てみると、学校や学校関係が多かった。このことから学校現場では情報モラル教育に関する知識を習得している教員が不足しているのではないと思われる。インターネットを介してのトラブルに子どもたちが巻き込まれてしまった際、対処する方法や仕組みが確立されていないのではないかと筆者は考える。このような観点から、kodomo2.0のような情報モラル啓発団体と学校現場は積極的に連携する必要があると考える。

2.4 活動についての考察

筆者らは講座終了後、参加者にアンケートを実施した。次からはアンケートの集計結果について述べる。なお今回記述するアンケート結果は、平成22年11月26日、12月18日、12月19日さらに平成23年2月20日に実施したものである。

講座の満足度についての項目では、「満足」・「やや満足」を合わせると、全員が満足しているという結果が出た。また講座の良い点について質問したところ、表3のような結果となった。

表3 講座の良かった点

項目	人数
役立つ情報が得られた	67
日頃の活動に役立った	14
スキルアップにつながった	20
他の参加者との交流・情報交換が図られた	3
抱えた問題・不安の解消につながった	12
その他	32

(※複数選択可、回答者数75名)

さらに講座に対しての意見をいくつか紹介する。

- ・今までよくわからなかったネット上の用語や問題点を楽しくわかりやすく教えてもらい、とてもよかったです。私の勤務する中学校でも書き込みによる中傷が問題になったところでしたので、とても切実な問題で興味をもって聞きました。
- ・私はネットについてあまり詳しくないので、高校生の子どもの世界を知れたような気がします。チェーンメールが来てあわてなくてもいいことがわかってよかったです。自分の子ども教え子も守りたいと思います。
- ・劇形式も面白く、印象に残る。
- ・親の方もまだまだ勉強し、子どもを守らなければいけないと思いました。

参加した人の意見から「問題点を楽しくわかりやすく教えてもらった」、「私たちがしっかり情報をつかえないと子どもたちにも伝えられないと感じました」と声があった。また、表3から多くの人が「役立つ情報が得られた」と回答した。

以上のことより、インターネットについて親が子どもを見守る重要性を伝えることができたと考ええる。

3. 情報モラル啓発劇の劇団員養成講座の実践

ITサポートさがは、平成22年10月30日より佐賀大学にて情報モラル啓発劇の劇団員養成講座※3)を開催した。ここでは、劇団員養成講座について述べる。

3.1 演劇ワークショップの概要

劇団員養成講座は本格的な演劇手法を学びながら情報モラルを身につけ、ドラマ劇を通して啓発を行っていくという趣旨のもとで始まった。講師は演劇家青柳達也である。劇団員は佐賀市内の小・中学校、高等学校から公募で募集し、小学生4名、中学生2名および高校生3名の計9名が集まった。劇団員養成講座の日程と詳細は表4に示す通りである。

表4 劇団員養成講座の日程

日程	内容	場所
10月30日(土) 9:30~12:30	シナリオ配布、読み合わせをする	佐賀大学
11月13日(土) 9:30~12:30	劇の形をつくる、配役決定する	i スクエアビル
11月27日(土) 9:30~12:30	互いに意見を出し合う	佐賀大学
12月4日(土) 9:30~12:30	リハーサルをする	佐賀大学

3.2 劇団員養成講座のシナリオ

子どもたちが演じるシナリオ※4)は全部で4つである。製作には青柳達也とITサポートさのメンバーが携わった。4つのシナリオの内容は次のようである。

① ファンサイト編

同じ小学校に通う仲良し3人組が携帯電話を使い、アイドルの無料ファンサイトに登録をする。しかし登録後に高額な請求が送られてきて焦り出す。結局、対処法が分からずに両親に相談する。

② 学校裏サイト編

中学の同級生2人は自分たちの通う学校のチャットをし始める。ネットは誰が書き込んだのか分からないと思い込んでいる二人は興味本位で同級生のことをチャット内に書き込んだ。しかしそのチャットが炎上してしまい、書き込まれた人は登校拒否になってしまう。

③ アダルトサイト編

主人公の保は友達と一緒にネット制限のないパソコンでネットサーフを始める。楽しんでネットサーフをしている二人。しかし、突然パソコンの画面上に「会員登録完了。期限までにお金を振り込んで下さい」と表記された。やばいと感じた友達の篤志は保を一人にして帰ってしまう。一人で解決できないと思い悩んだ保は父親に相談する。

④ 違法ダウンロード

妹の宏子は姉の瞳が携帯でたくさんの楽曲を聴いていることに興味を示す。瞳は音楽を正規の楽曲配信サイトからダウンロードしていると言い張るが、実は違法にアップロードされている楽曲配信サイトからダウンロードしていた。

3.3 劇団養成講座練習風景

青柳達也の指導法は、ウォーミングアップから始まり体や声を慣らした後に演技に入らせる。以下は実際に行われた演劇指導の様子である。

① ウォーミングアップ

発声の基本や演劇における即興性、即時的能力

を高めるエクササイズ。団員間のノンバーバルコミュニケーションを高め、意識を統一する効果が期待できる。

全ての講座は、ここからスタートする。



図1 ウォーミングアップの様子

② シナリオの読み合わせ

グループごとに分かれ、ストーリーと問題点の把握を行った。

登場人物の立場や服装などシナリオ外の設定も考慮し、役作りの手掛かりとした。

第1回目の講座で配布されたシナリオを個々に読み込み、第2回目からグループ討議を行った。

第1回目の読み合わせで、中学生の読みに触発されて、小学生の読みが向上するという効果があった。



図2 シナリオの読み合わせの様子

③ 問題点の整理

グループに分かれて、ディスカッションを行った。各シナリオが抱える問題点、それぞれの登場人物が抱える問題点をディスカッションし、グループ内の意思の疎通を図る。この時、子どもと大人の討議が行われ多様な価値観の存在に対する気づきや解決への技術的アドバイスが行われることにより、劇団員の情報リテラシーの向上につながる効果が期待される。



図3 問題点の整理に取り組む小学生と高校生

④ 問題点や予防策について模造紙にまとめる。

ディスカッションの過程で問題点や予防策を模造紙にまとめる。討議の内容が視覚化され、グループ討議を全体で共有するための資料となる。



図4 それぞれの考えを模造紙にまとめる参加者

④ 発表

各グループで協議したネットの問題点や予防策を全体で共有することで、参加者の情報リテラシーの向上が期待される。同時に類似する経験を共有することにより場面の状況把握や周囲の反応などの理解が深まり演技の幅が広がると考える。また各グループの発表では、子どもたちに発表の場を設けることで、相手を意識し、考えをわかりやすく伝えるようにするよう心がけさせた。



図5 グループで話し合ったことを発表する小学生

3.4 劇団員養成講座の総括

今回の講座実施を通して、情報モラル啓発劇の指導手法を確立することができたと考える。講座の過程と期待される効果は以下のとおりである。

①エクササイズ

人を見る・集中する能力・演技（他者を感じる・感じ合う）の基本を体感。

②問題点の把握（個人・グループ）

自分と他者の違いの認知・価値観の共有。

③子どもと大人の討議

多様な価値観の存在に対する気づき・解決への技術的アドバイス。

④演技プランの立案

他者の立場を考える力・ノンバーバルな表現技能の獲得。

これらの過程を通して、劇団員のコミュニケーション能力の育成と情報リテラシーの向上が図られることがわかった。

また本講座を実施後、成果（啓発劇）を発表する機会を設けることで以下の効果があったと考える。

i) 教材としての効果

学校や地域における情報モラル学習の教材として十分活用できる。

ii) 児童生徒への効果

同世代の児童生徒が演じているので、問題にリアリティを付与することができ、より身近な問題として捉えさせる効果がある。

iii) 保護者への効果

自分の子どもと同世代の児童生徒が演じているので、問題にリアリティを付与することができ、現代の問題であるという認識を深めることができる。

iv) 子どもを取り巻く地域社会への効果

現代の子どもたちが置かれている現状が把握しやすく、問題が対岸の火事ではないことを意識できる。

さらに、劇団員養成講座に参加した子どもたちにアンケートを行った。このアンケート集計結果には大学生の参加者を含まないものとする。

1. 劇団員養成講座の内容全般について、ご満足頂けましたか。

項目	人数
満足	8
やや満足	1
やや不満	0
不満	0

インターネットの問題点を表現し伝えたい欲求が、「満足」につながったと考える。小学生から大学生という幅広い年齢層に配役を当てることで、お互いの経験と価値観の共有を意識しながら活動させることができた。したがって、劇団員養成講座に参加した子どもたちは、ほぼ「満足」と答えたと考える。

2. 劇団員養成講座に参加して、どのような点が良かったですか。

項目	人数
役に立つ情報が得られた	7
日頃の活動の役に立った	2
スキルアップにつながった	7
他の参加者との交流・情報交換が図られた	9
抱えた問題・不安の解消につながった	0
その他	7

「他の参加者との交流・情報交換が図られた」と回答した人数が一番多かった。先ほども述べたが幅広い年齢層に配役を当てることで、お互いの経験と価値観の共有を意識させたことにあると考える。異年齢での話し合いの場を設定することで、効果を高めることができたと考える。

○その他の意見

- ・年代が違う子と話す機会があまりなかったのが新鮮でした。
- ・ただ話を聞いたり、見たりするのではなく、様々な人と話し合いながら劇をすることでいろいろな考え方や知識を得ることができた。
- ・さまざまな年代の意見が聞けた。

- ・演劇を通して相手に伝えることがとても難しいと感じた。
- ・お兄さんやお姉さんと話ができ楽しかった。
- ・とても楽しかった。
- ・今回様々な体験をさせていただきました。今後は今回の経験を活かして頑張りたいと思います。

3. 今後このような講座を実施する際、参加したいと思いますか。

項目	人数
ぜひ参加したい	8
どちらかと言えば参加したい	1
あまり参加したくない	0
参加したくない	0

「ぜひ参加したい」と回答した人数がほとんどだった。このことから「劇団員養成講座」が子どもたちにとって有意義な活動になったと考える。

4. おわりに

演劇ワークショップを終え、情報モラル教育の新しい形が提案された。しかしながら、演劇ワークショップによる教材開発は、まだ始まったばかりであり、この手法をそのまま学校教育に導入するのは無理があるだろう。筆者らは今回のワークショップのノウハウを学校教育に導入する方法について考えていくつもりである。現在、学校現場においてICT教育が進められているが、ICT機器の使いばかりではなく、情報モラル教育の充実も必要である。インターネットの利便性と危険性をしっかりと多くの人が認識できるようにこれからも活動を続けていくつもりである。

5. 参考文献

- 1) 陣内, 横尾, 江口, 石橋, 浴本, 松田, 青柳, 小倉, 山崎, 羽田, 中村, 角. 2009. 「青少年の情報モラル醸成のための産官学民連携に保護者向け教育実践—青少年の情報モラル育成のためのドラマ教材—」『佐賀大学教育実践研究』第25号, 285-292

- 2) 小倉, 山崎, 陣内, 横尾, 江口, 石橋, 浴本, 松田, 山田, 岩永, 三枝, 野崎, 羽田, 中村, 角.
2010. 「佐賀大学生が取り組む市民活動 kodomo2.0」『佐賀大学教育実践研究』第26号, 215-220
- 3) 陣内, 浴本, 横尾, 青柳, 岩永, 山田, 野崎, 一瀬, 橋本, 石橋, 羽田, 中村, 角 . 2011. 「情報モラル教育におけるドラマ教材開発と相談窓口設置」『佐賀大学教育実践研究』第27号, 153-160
- 4) ITサポートさが, 2011, 「親子で学ぶ情報モラル啓発モデル事業 成果報告書」